



☆ すこし脱線だが、その話をした席とは、たしか女性ば三・四人（まわりできいていた男たちが六七人）。ぼくは女性たちにむかつてもっぱらしやべつたのだが、ぼくの女子供諭をよこできいていま男たちの微妙な表情（あまゝい）は、ぼくもかも——我意をなしたりといつたとき、に助平（すけへい）らしい笑いの、ときには、だからおん（おん）なは、という差別をたゞおぼした——が、氣になつてしようがなかった。

(表よりつゞく「ぼくの女子供論」)

何故このような話題となるか、男たちはニヤニヤしてうれしがるのか、は又何故、女たちが「女子供論」をときいただけで、マナジリをキリリとあげて、女差別の証拠みつたり！とばかりイキマクのか、と共通する。ぼくがその中で言っているのは、いまの社会構造としてみられる人おんなの状況であり、それゆえにおとこにとつてもまた同じ問題でなければならぬ。この論のなかには人差別はない。そして向蹊は、それを語るべき、おとこの語り方聞き方にあらわれた人差別である。そのニヤニヤ笑いにある。(33頁)自連ペン集M・Aは、女々論その他に「ガイイ」の著者、このように男女の感情をこころみ、その内面する自他の女差別をあらわすものではない(ならぬ)。

D

⑩もし、女にとつて、男の子のへ家出のようなのがあるとしたら、つまりへ家出があるとしたら、それは家から出て家へ入るまでの、わずかな期間がそれだろう。しかもそれはへ家に出るのではなく、へ家に入るための旅、であることにおいて、男の旅と質的にちがっている。

⑪それは、旅の行手にへ家出というきめて満足した社会(共同体)をみているか、あるいは未知の荒野の果にある、自己の営々と参加によつてつくる、無数の聚落をみているかの相違である。

(注)もつと具体的な現実の旅にひきもどしていても、その意図的なひとり旅は、ほとんど戦時代の一時期にかざられていたようだが、さもなくば、子を育て終り自己の家を確立し、遂に一箇のおんなとなつた中年以上の人たちがである。例外的な女の放浪も、やはり戦時代にかざられ、それはしばしばへ性離脱である。

(注)むかしモロリコ?という名画があつた。(トシがわがるネ)外人部隊の兵士の男を追つて、酒場の踊子が狂気のように砂バクを走つていく。靴がじやまで、その靴をほうりまげて追う。のラストシーンである。役女はそれからどうなつたか、知らない。靴のない素足では、到底五キロもあるけなう。

そのような愛情を介在させた男と女の関係ー男は放浪の旅に出、女はそれを追うが追いきれないー典型は、武藏とお通にみられる。武藏が旅であるとすれば、この場合お通は、家である。

よく村芝居に年一度まわつてくる旅役者に入れあげて、そのあとを追つて行方をくらました百姓のおかみさんが、半年たったためうち、やつれはてて帰つてくる、といった話をきく。これらは、いずれも女と旅の関係を側面から照し出すものである。

(注)やはり山藤文庫の整理合宿のとき(昨年四月)、へ家の友は何かという宿題を出したことがあつた。へ家はこのような意味で、家と対蹊的なものである。

E

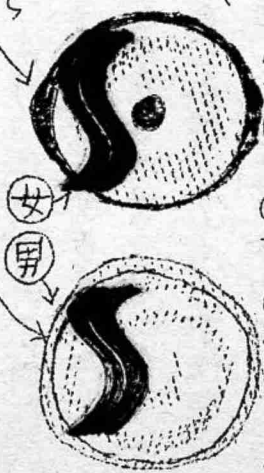
⑫誤解されやすいので附記すると、ぼくは、男と女との相対的な相違としてある人性以外に、男女差はあまり重要かつ本質的なものとは思っていない。むしろ個性

人差の方が重要があると思つてゐる。ペイオム(8号)へ家について9Vにかいたへ家出の例のように、妊娠・分娩・哺育の一定期間は、男がなしえない。女が母となつたとき、天賦の時間であり、女のみのものだろう。

⑬何かが読んだ受売りだが、例えは女が女であることは100分比で、女性度50%、男性度49% (男はその逆)だという。ぼくはそれを次のように考へてゐる。

例えは、赤が女、白が男性度とすると、それが混合してあるとき、女はやゝ濃い桃色、男は淡い桃色である。が、そのように混合が完全には完結化されてゐるのではなく、ムラがあるまじりか、ではないか、つまり、円球に例えらる。

■女性度 □男性度 混合



そして問題、その円球を外側から眺つてゐるうすい「フィルター」である。さらにBの⑦⑧⑨のべたへ家の子につくられるは、これの後天的付与にほかならない。

⑭一面を刷り上げて、丁度サルトンに泊つてゐる芳村君にみせたところへ家の子は、はじめからおんなの性としてつくられるというのがわからないと云う。もつとはつきり云へば、女の子は「全身が生殖性」として育てられる。生殖のむすめを花のつぼみにたとへ、花の美しさとしてたてゐるが、花はそれこそ生殖性そのものに外ならない。逆令期?のおんなはまさにその意味でへ家身それオマンコとしてかざりたてられ、男をへ家へにさそうのである。

⑮云々でもこのことながら、ここで女は、男は、と区分したような意味での、女性度100%あるいは男100%そのものの男女はありえない。たゞ女の子は、つくられることによつて「フィルター」がかけられ、実際の女性度以外の(男性度すらも)女化されている。そしてそのことに対して男たちはほとんど関知しないふりであるわけなのである。

⑯男の子もまたへつくられることにおいて女の子とかわりはない。ウーマン・リヴは男の子を敵にするのではなく、共に「フィルター」を破るための陣いの方法をみつけなければならぬ。女たちは、自己の眼をおつてゐる赤いフィルターに気付いてゐるか!

雑記ノット

サルーン火曜例会。
毎週午後六時半より
全席予約制(タテマ)

⑰4月29日からの新日本文大会の印象をちよつとかいておきたい。それから山藤文庫整理室のこと、久板卯之助の墓をたづねたこと。合宿の様子、富士宮ふもとの家での打あけへ全員の男性討死のこと、忘れぬうちに、と思ひながら、また今更もほかのことをかいてしまつた。これは、ぼくに公開の質問状を出したM・Aさんの責任である。これをよんだ上で、役女が再質問状を出してくれることを期待する。ぼくと役女との関係深化のため。

⑱望月明美さんが明石の和田久太郎の墓をさがし出し敬えて下さつた。芳村君が出したへらつて(自連特別号参加)に所在などがくわしい。乞参。一と有とそつて訪ねる機会をつくりたい。

⑲永々革命への闘士へ高尾早矢征へ萩原素子著八の田(送当方黄紙)申込み。へ家代り送る集後送領と共千四百円。

姫路市島山三五四番地 向井孝亮行イオム128
自由連合 特別号参加 72.6.5